



発行日：平成 26年 1月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆矢作川流域圏懇談会の第 16 回川部会 WG を開催しました！

各モデルのとりまとめに向けて、今年度最後のWGを開催しました。地先モデル、家下川モデル、本川モデルの3部構成で、これまでの活動を振り返り、わかったことや今後検討する必要があることなどについて、意見交換を行いました。

日時：平成 25 年 12 月 20 日（金）18:00～21:30  
会議場所：豊田市職員会館2階 第1会議室  
参加者：16名（事務局含む）



### ◆主な意見交換内容

#### 1. WGの内容



##### 第1部：地先モデル

- 専門家リストについて、必要な情報として名前と所属、大卒の専門分野を示し、分野や場所でソートするなど使いやすいものを目指す。掲載候補者について、WGメンバーで各分野のキーパーソンになる人を提案する。
- 活動環境に関する課題について、活動がうまくいくための仕組みとして、どんなパターンがあるか整理できるとよい。活動がうまくいっている事例とそうでない事例の両方を確認していく必要がある。
- 地先モデルを進めていく上で活動団体のリストが必要であり、各管理者が把握している団体を事務局に提供する。



WGの様子

##### 第2部：家下川モデル

- 阿部氏から第5回家下川リバーキーパーズの活動（12/5実施）とこれまでの活動による効果について報告いただき、モニタリングにより、ブロック堰周りで生き物の棲みかが確保されていることや矢板カットによる移動阻害の改善効果があったことがわかった。
- 草の植え付けは、水路の増水で流れてしまった。コンクリート河床の改善や承水溝の浚渫、石組の漁礁、草を定着させる方法などを検討する必要がある。
- 排水機場の計画について、基本構造検討後にWGで提案できる状態にする必要がある。

##### 第3部：本川モデル

- 本川モデルの各課題の情報共有が進んだ。（右表参照）
- 白浜工区について、完成して1年が経過していい環境になっていたが、台風18号の出水でかなり変化した。順応的管理の中で、少し手を入れて整える必要があることを確認した。
- 河川環境の方向性について、WGとしての取りまとめが進んだ。生物にとっての土砂、流量による攪乱頻度の視点も必要である。
- 今後、総合土砂管理検討委員会で検討されている水系全体の議論とWGで検討されているローカルな議論を行き来しながら検討できるとよい。委員会の検討状況の情報が必要である。

主な報告事項（報告者）	主な事項
カワヒバリガイ （内田座長）	・確認された生息範囲が拡大
アメリカナマズ （山本氏：矢作川研究所）	・ポスター掲示による情報提供の呼びかけ ・わかってきた生態について
白浜工区（事務局）	・完成一年後のいい環境 →台風18号による変化
瀬淵（鷲見副座長）	・縦断図により、水面下の河床の凸凹が明確に

## 2. 意見交換



### ●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

#### (1) 地先の課題モデル

- ・新編豊田市史や名古屋市史が編纂中であり、そのメンバーにあたってみてはどうか。(内田)
- ・各分野のキーパーソンになる人を事務局に提案することとしてはどうか。(本守)
- ・利用ルール・啓発について、市ごとのルールを比較できるとよい。
- ・うまくいっている活動事例を紹介して共有する仕組みが必要である。(内田)
- ・地域住民と行政の間で屈託のないやりとりができればうまくいくのか、矢作川研究所のように第三者的な機関が必要か。活動がうまくいくための仕組みとして、どんなパターンがあるか整理できるとよい。(鷺見)
- ・河川敷は、河川管理者 - 公園管理者 - 利用者の関係があり、利用者にとってどうあればよいか、いずれ考える必要がある。(鷺見)
- ・各管理者にアドプト制度などの登録をしている活動団体があったら、事務局に活動団体のリストを提供いただけると有り難い。(事務局)

#### (2) 家下川モデル

##### ■上郷2期地区排水計画について

- ・排水機場の計画について、計画が固まってからでは、意見を言っても変えられないのではないかと。今の段階で提案できるとよい。(本守)
- ・長池との接続をキープし、敷高を下げられる構造にしてもらうことが第一である。(鷺見)
- ・基本構造が固まっていない状況で、2~3月頃であれば、計画案を提示できると聞いている。(事務局)
- ・できる限り早い時期に相談できるよう事務局から依頼していただきたい。(内田)

##### ■優先的に検討すべきことについて

- ・上郷排水機場の計画があり、できる限り早い段階でWGで検討に入る必要がある。(内田)
- ・その他に、長池の水源の問題、承水溝の浚渫形状の検討がある。(鷺見)
- ・中長期的な議論も必要ではあるが、大きな動きに対して提案していくことを優先課題としたい。(内田)

#### (3) 本川モデル

##### ■白浜工区について

- ・白浜工区はかなり環境が変化してしまったので、順応的管理の中で手をを入れて整えられるとよい。(鷺見)
- ・安部氏にアドバイスをいただきながら、半日程度の重機を使った作業であれば可能と考えている。(小林)
- ・鷺見研究室で作業後の地形を測量を実施し、今後、河床の応答状況をモニタリングしていくことにしたい。WGの活動の一つとして、測量をやってみてもよいと思う。(鷺見)

##### ■河川環境の方向性について

- ・総合土砂管理検討委員会の水系全体の議論とWGのローカルな議論を行き来しながら検討できるとよい。土砂と地形の応答は基本的な知見が必要であり、総合土砂管理検討委員会で考えてもらえるとよい。(鷺見)
- ・生物にとって重要なのは、攪乱頻度であり、土砂バイパスは大きな問題になる。(内田)
- ・土砂だけでなく、流量でも攪乱は起きるので、川の生物にとっての攪乱頻度など考える必要がある。(鷺見)
- ・総合土砂管理検討委員会に対して、WGでの議論を伝える必要がある。(内田)
- ・オブザーバー参加の依頼があることを総合土砂管理検討委員会に伝えていただきたい。(鷺見)

#### (4) 今後の進め方

- ・次回は、1月16日に第4回川の地域部会を開催する。(事務局)
- ・次回の市民企画会議では、山川海の連携をどう図るかの議論ができるとよいと考えている。(事務局)
- ・最近、市民側の出席が少なく、出席を増やす方法がないか考える必要がある。(本守)
- ・1月22日の「いい川」づくり研修会で、西原氏、安部氏から話題提供がある。(事務局)

### ◆お問合せ◆

#### 矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。

